はじめに

［１］「地誌」講座を受講するみなさんへ

みなさんこんにちは。地理のたつじんです。楽しく地理を勉強していきましょう。この講座のテーマはズバリ「地誌」です。地理は，気候や農業，工業などジャンル別に考察を進める「系統地理」と，国別や地域別に重要事項を整理する「地誌」の学習とに大きく分かれています。重要性が高いのは「系統地理」の方で，それについては今までアーカイブの「高校（高１～高３）地理」の24講によって十分に勉強してくれたと思います（あれ？まだ不十分の人もいるって？そういう人は今すぐ復習にしっかり取り掛かりましょう！）。

系統地理を完成させた上で，発展段階として取り組むのがこの「地誌」なのです。世界を俯瞰し，アジアやアフリカ，ヨーロッパ，新大陸などに区分して，それぞれの特徴をまとめていきます。系統地理では軽視していた地名や都市名についても，ここではしっかり勉強していきますよ。「机上の世界旅行」を楽しむイメージで，この５講から成る講座を楽しんでもらえたら，たつじん先生としてはこれほど嬉しいことはないのです。

［２］授業の内容とテキスト

「地誌」講座は上でも述べたように５つの講から成り立っています。系統地理を扱った「高校地理」の24講に比べてかなり少ないじゃないかって？でも，その分，内容は濃くなっていますよ。系統地理で得た知識をフル動員して，地誌学習に活かしてくださいね。

各講は，テキスト，練習問題，確認テスト，そしてそれぞれの解答・解説から構成されています。授業は練習問題を中心に進めていきますが，テキスト部分でその簡単な解説を行っていますので，受講の前にこちらをしっかり読んでおくことをお勧めします。詳しくは後の「予習と復習」でお話ししますね。

練習問題は各講につき，10問ずつ用意されています。いずれも過去のセンター試験で出題された問題ばかりです。みなさんもご存知のように地理に関してはセンター試験と共通テストとで大きな傾向や形式，難易度の違いはありませんので，共通テスト対策としてセンター過去問を通じて学習を進めることは非常に有効なのです。やや年度が古い問題も含まれていますが，現在との相違点が大きい場合には授業の中でその違いなどについても触れていきますのでご安心ください。

問題セレクトの基準は「良問」です。本試験と追試験の区別なく，そして地理Ｂのみでなく地理Ａからも質の高い問題を選んで取り上げています。とくに共通テストでは深い思考力が必要となっていますが，もちろんその傾向も踏まえて，みなさんの実力アップに必ず役立つ問題を取り揃え，研究と分析を進めます。「共通テスト対策なのにセンター過去問を使うなんて意味がないじゃないか」，「追試験は傾向が違うんじゃないのか」，「地理Ａは簡単すぎて参考にならないじゃないか」という声が聞こえて来そうですが，それは全くの誤解です。他の科目とは異なり，地理の場合は追試験もさほど

傾向や難易度は変わりませんし，むしろ，本当に優れた問題が多いので，ぜひともみなさんにはすすんでチャレンジしてほしいのです。さらに地理Ａについてですが，全体の難易度としては地理Ｂよりも高いぐらいであるということを知っておいてください（実際に平均点も低いですよね）。とくに「地誌」ジャンルで必須となる地名や都市名については，地理Ａの方が詳しかったりします。より深い地誌の学習のためには地理Ａの問題を通じて，理解を高める必要があるのです。

　もちろん，追試験や地理Ａの問題の全てが地理Ｂ本試験の内容に即しているわけではありません。でも，そこはたつじん先生にお任せを。私が責任をもって，「ベスト」と考えられる問題をセレクトしてあります。本当に興味深い問題ばかりですよ。それぞれの問題の個性に出会い，その魅力を存分に味わってもらえることを期待しています。

［３］　各講で扱っている範囲

「地誌」の５つの講の内容を紹介しますね。

第１講；東アジア・東南アジア　韓国や中国，東南アジアについて学習します。とくに東南アジアは10か国ほどしかありませんが，全ての国が出題対象となりますので，国別に整理して考えていきましょう。

第２講；南アジア・西アジア・アフリカ　とくに西アジアなどはイメージが持ちにくい地域と思いますし，アフリカならばその国の数に圧倒されるかもしれません。しかし，細かな国は出題されませんし，宗教や民族について大まかに理解できれば十分な地域でもあります。リラックスして取り組みましょう。

第３講；北ヨーロッパ・西ヨーロッパ　非常に「密度」が高い地域です。とくに都市名などは細かいところまで覚えることが必要になりますので，気合を入れていきましょう。しかし，イギリスやフランスなどメジャーな国も多く，たいへん興味を持ちやすい地域と思います。大学に入ったらぜひとも観光で訪れてほしい国々でもありますし，楽しく勉強できますよね。

第４講；東ヨーロッパ・CIS・カナダ　CISとはロシアを中心とした国々のことですが，東ヨーロッパも含め，馴染みの薄いところかも知れません。民族や宗教，歴史背景がポイントになります。さらに北アメリカ大陸に入りますが，まずは自然環境について学習しましょう。

第５講；アメリカ合衆国・中南アメリカ・オセアニア　ラストは新大陸です。アメリカ合衆国やオセアニアは地名や都市名が，中南アメリカは国ごとの民族構成が非常に重要なポイントとなっています。

以上の５講によって「世界旅行」は完成します。なお，残念ながら日本地理は含まれていませんが，共通テストを始めとする大学受験地理で出題される日本地誌は中学校の

学習内容を踏まえたものが多いので（簡単という意味ではありませんよ。むしろ細かいということです），各自で中学社会の問題集を解くなどして対策を進めてくださいね。

［４］ 地図の使用と授業の受け方

系統地理と地誌との圧倒的な違いは「地名・都市名」の登場する頻度にあります。「高校地理」の学習の際には軽視していた地図帳の使用が，「地誌」では必須となります。手元に必ず地図帳を置いて，一つ一つ確認しながら，視聴を進めてください。

ただし，この際に使用する地図帳は特殊なものでなくて構いません。小学生や中学生が使うような簡単なもので大丈夫ですし，学習用ではなく家庭で楽しむような世界地図でも問題ありません。そもそも共通テストを始めとする大学受験地理にはさほど細かい地名・都市名は登場しませんし，メジャーなものだけを地図で簡単に確認するだけでいいのです。

考えてほしいのですが，共通テストを始めとする大学受験地理はそもそもモノクロ印刷ですし（なぜカラー印刷にしないのでしょうね），登場する地図もほとんどが海岸線や湖岸線など輪郭だけが描かれたものですし，国境線はともかく，河川や山地のほとんどは省略されていますよね。詳細な地図帳を用いて，地形や都市の位置を厳密に記憶する必要はないのです。そもそもカラフルな地図帳でそれらの位置を覚えてしまっていたら，実際の共通テストを始めとする大学受験地理の簡略化された図で問われた場合に，イメージと異なってしまい，混乱することすらあります。

とはいえ，やはりビジュアル的な理解は必要です。簡素なもので構いませんので，必ず地図を携えて，授業を視聴するようにしてください。

なお，その際にいくつかサインペンを用意しておくといいと思いますよ。「地図帳は汚すもの」と割り切ってしまっていいと思います。黒ペンや赤ペン，青ペンで，どしどし地図に直接いろいろなことを描き込んでいきましょう。

もちろん地図は美しいものですし，そこにごちゃごちゃ描き込むことは本意ではありませんが，勉強の効率化のためには仕方ありません。抵抗があるかもしれませんが，力強い文字で様々な事項を直接描き入れていきましょう。

ところで，話が前後してしまいましたが，本講座も他の動画講義と同様に１つの講（60分）について，３つのチャプター（各20分）から構成されていますので，自分のペースに合わせて視聴してください。地誌講座では黒板に多くの図を描くことになりますので，ノートに写すのが困難かも知れません。しかし，やはり自分で図を描くことは，深い理解につながります。映像を一旦ストップし，黒板をアップにして，自分なりの図をノートに描きましょう。私が描くのはいつも簡単なシンプルな図です。でも，だからこそポイントはつかみやすいと思いますよ。みなさんも，「たつじん流」の世界地図の書き方をマスターしましょう！

［５］ 予習と復習

「高校地理」に比べ，「地誌」では予習が重要視されます。24講を費やした高校地理講座に対し，地誌は５講しかありません。その分だけ密度も高いですし，授業のテンポも早くなります（もちろん，ペースが早いなと思ったら，一旦映像をストップするな

どして，自分のペースに合わせて視聴してくださいね)。予習は必須なのです。

とくにすでに系統地理の勉強が終わっており，みなさんにはある程度の地理の力が備わっていると思います。予習についても，さほどの労力は必要としないはずです。

予習に多くの手間をかけることは本来なら効率が悪いことで，決してオススメできることではありませんが，「地誌」ならば問題ないと思いますよ。

授業は練習問題を中心に進めていきますので，少なくともその内容には目を通しておいてください。解ける問題も多いと思いますので，無理のない範囲で解いておきましょう(わざわざ教科書や参考書を調べる必要はありませんので，あくまで自分のできる範囲で)。その際に，テキスト部分も必ず読んでおくこと。問題に対するアプローチを解説していますし，さらに単に問題を解くだけではない，発展的な内容もそこでは触れています。立体的な学習のために，「テキスト＋練習問題」の活用は必須となります。

また繰り返しますが，地誌学習における地図(地図帳)の重要性は高いので，簡単でいいので，練習問題やテキストにおいて登場している地名や都市について場所を確認しておくといいでしょう。

さらに復習です。受講後，再度テキストに目を通し，練習問題を解いてみましょう。地誌は「覚える」ことが大切です。練習問題の内容をそのまま覚えるぐらいの気持ちで取り組んでくださいね。解答と解説も用意してありますので，授業の内容を踏まえて，そちらの内容も参考にしてください。

そして仕上げとして「確認テスト」に取り組んでください。一部発展的内容も含まれていますが，ここまでしっかりと勉強してくれたみんなならば，各講に用意してある5問の確認テストについて「パーフェクト」が狙えるはずです。知識を定着させましょう。

［6］　国公立二次・私大受験生のみなさんへ

おそらく多くのみなさんが，共通テストを受けるために本講座を利用されているのだと思います。しかし，もちろん国公立二次や私大の受験において地理を利用したいというみなさんもいますよね。「何だ，共通テストに特化した講座ならば，私たちは関係ないんだ」と思っている人もいるかもしれませんが，それは違いますよ。気は抜かないでください。国公立二次や私大の入試こそ，「地誌」的な知識がとくに重要となるのです。共通テストで登場する地名・都市名は限定的であり，最悪の場合それらを十分に知らなくとも，思考することで対応できる場合もあります。それに対し，国公立二次や私大においては地名・都市名がそのまま出題されることが多く，知らなければ全く歯が立たないどころか，そういった知識問題で正解するか否かが合否のカギを握ることが多々あります。国公立二次・私大受験生だからこそ，この「地誌」講座は必修として取り組んでください。最低限の地名・都市名を覚え，さらに地誌学習のコツをつかんで，それぞれの大学の実戦的な対策へと結びつけましょう。

［7］　では，楽しく「地誌」の勉強を始めましょう

いかがだったでしょうか。本講座の意義や内容，そして取り組みについて理解してくれましたか。系統地理だけでは十分でない，より発展的な内容を「地誌」講座を通じて習得し，地理マスターの道をめざしてください。世界全体に視野を広げることで，

受験だけではない，より広い知識が得られるはずです。「大学に入ったらどこに旅行に行こうかな」みたいな気楽な気持ちで受講するのもいいかも知れません。素晴らしい「地誌」の世界を楽しんでください！

目　次

第１講　東アジア・東南アジア ……………………………… p 8

第２講　南アジア・西アジア・アフリカ ………………………… p 30

第３講　北ヨーロッパ・西ヨーロッパ …………………………… p 54

第４講　東ヨーロッパ・ＣＩＳ・カナダ ………………………… p 78

第５講　アメリカ合衆国・中南アメリカ・オセアニア ……………… p 100

このテキストは 2020 年度版です。年度切り替わりの前後に講座ページに掲載予定の時事更新一覧をご確認頂くことで，来年度以降もこのテキストをそのままお使い頂けます。

〈Note〉

第１講
東アジア・東南アジア［テキスト］

［１］　ソウルは韓国の首都であり，国内総人口の５分の１近くが集中する巨大都市。郊外のインチョンは外港都市として発展し，現在は東アジア航空交通の中心となるハブ空港を有する。プサンは朝鮮半島南岸に位置する国内最大の港湾都市。古い時代から日本とのつながりが強く，現在も九州などと船舶で結ばれている。ポハンは日本海に面する鉄鋼都市。近隣のウルサンでは自動車工業など。

［２］　中国を地域ごとに捉える。

・東北地方・・・東北平原を中心とする。夏季は比較的高温となり，大豆の生産が盛んだが，冬季はシベリア高気圧の影響により極めて低温で少雨となる。

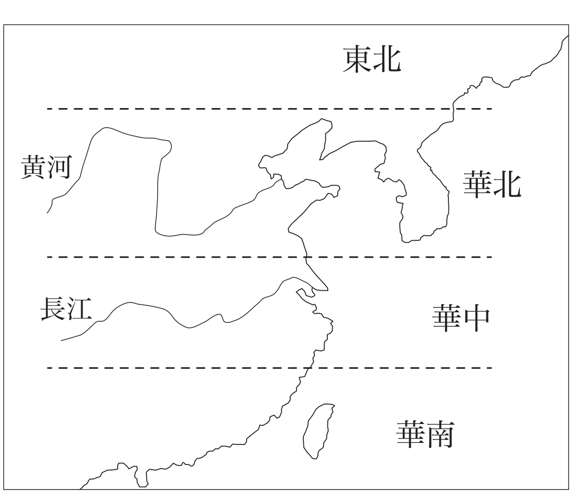
・華北・・・黄河流域。やや乾燥し，黄河もしばしば水が枯れる（断流）。黄河中流域の黄土高原から砂が巻き上げられ，風によって日本へも運ばれるが（黄砂），植林運動によって森林の回復もみられる。冬小麦や雑穀の栽培。

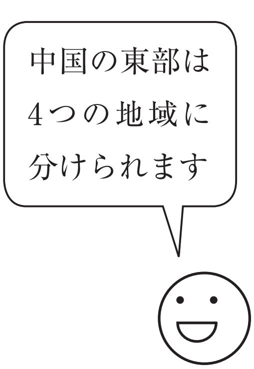
・華中・・・長江流域。降水量が豊富で（年降水量1000mm以上）沖積平野では米作が盛ん。中流部のスーチョワン盆地は米と冬小麦の二毛作。

・華南・・・亜熱帯性の気候で，台風の影響でとくに夏季に多雨。丘陵地では茶の栽培もされるが，水田に適した土地は少なく，二期作が行われる。

・北西部（シンチアンウイグル自治区）・・・テンシャン山脈など険しい山々に囲まれた盆地には砂漠が広がる。

・南西部（チベット自治区）・・・標高4000mに達する冷涼少雨の高原。ヤクの





遊牧が行われている。

［３］　中国の省で重要であるのは２つ。スーチョワン省は長江中流部に広がる盆地を中心とする。米と小麦の二毛作が行われる豊かな農業地域で，地域人口(＊)は１億人に達する。ただし，経済レベル(１人当たり省内総生産)は低く，高賃金の雇用を求め沿海部への出稼ぎが生じている(民工潮)。なお，1997年にスーチョワン省からチョンチン市が中央直轄市として分離している。

さらにコワントン省。フーチエン省などとともに華南地域を構成しているが，山がちな地形で耕地に恵まれず，かつて多くの移民が生じた(華僑)。しかし，19世紀に入り，イギリス人の手によってホンコンの港が開かれ，さらに1980年代以降は経済特区を中心に工業化が進み，経済成長率は極めて高い。内陸部からの出稼ぎ労働者を多く迎え入れている。

(＊)スーチョワン盆地に位置するスーチョワン省とチョンチン市の人口の合計。

［４］　中国には５つの自治区が設けられ，それぞれ少数民族により自治が行われている。

・内モンゴル自治区・・・モンゴル人による遊牧文化がみられ，移動式住居であるパオが利用されていた。チベット仏教(ラマ教)が主に信仰される。

・シンチアンウイグル自治区・・・シルクロードに沿い，イスラム教が伝えられた。内陸砂漠が広がり，ウイグル人はオアシス農業により小麦や綿花の栽培を行っている。近年は油田やガス田の開発も進み，パイプラインによって資源は沿海部へと送られている。

・ニンシアホイ族自治区・・・アラブ系をルーツとするホイ(回)族を中心とする。イスラム教を回教とよぶのは，彼らに由来する。黄河沿いで綿花の栽培など。

・チベット自治区・・・標高4000mの高原を中心とする。冷涼少雨の気候がみられ，チベット人によってヤクの遊牧が行われている。近年，鉄道が開通し，沿海部との交流も活発になった。区都ラサには，チベット仏教(ラマ教)の総本山であるポタラ宮がある。

・コワンシーチョワン族自治区・・・ベトナムに接する。温暖多雨の米作地域で，チョワン族は国内の少数民族として最も人口が多い。仏教(大乗仏教)が信仰されている。

［５］　中央直轄市は４つ。首都ペキン，その外港都市テンチン，最大の商工業都

市シャンハイ，スーチョワン盆地の東部を占めるチョンチン。

資源と結びつく都市としてとくに重要であるのは東北地方の中心に位置するターチンであり，国内最大の油田が位置する。同じく東北地方の遼東半島の付け根に位置するアンシャンは国内最大の鉄山に近接し，鉄山立地型の鉄鋼業が栄えた。三大鉄鋼基地の一つ(他の２つはパオトウとウーハン)。ただし，近年は輸入した鉄鉱石と石炭への依存率が高まり，臨海部の鉄鋼生産が急増している。シャンハイ郊外のパオシャンなど。

1980年代の改革開放政策によって華南地域に５つの経済特区が設けられた。安価な労働力を求める外国からの工場が進出。アモイ(台湾に近接)やシェンチェン(ホンコンに近接)など。とくにシェンチェンの成長は著しく，その人口の多くはスーチョワン盆地からの出稼ぎ者で占められている。

［６］　東南アジアは，環太平洋造山帯とアルプス・ヒマラヤ造山帯が会合し，複雑な地形が生まれている。タイランド(シャム)湾やマラッカ海峡など大陸棚の広がる浅い海域に対し，フィリピン諸島の東岸とインドネシア・スマトラ島とジャワ島の南岸に沿って海溝が走行する。巨大地震の震源地となり，周辺に火山も多い。

インドシナ半島には長大な河川もあり，その代表がメコン川である。中国に水源を発し，ベトナム南部に河口を有する国際河川。

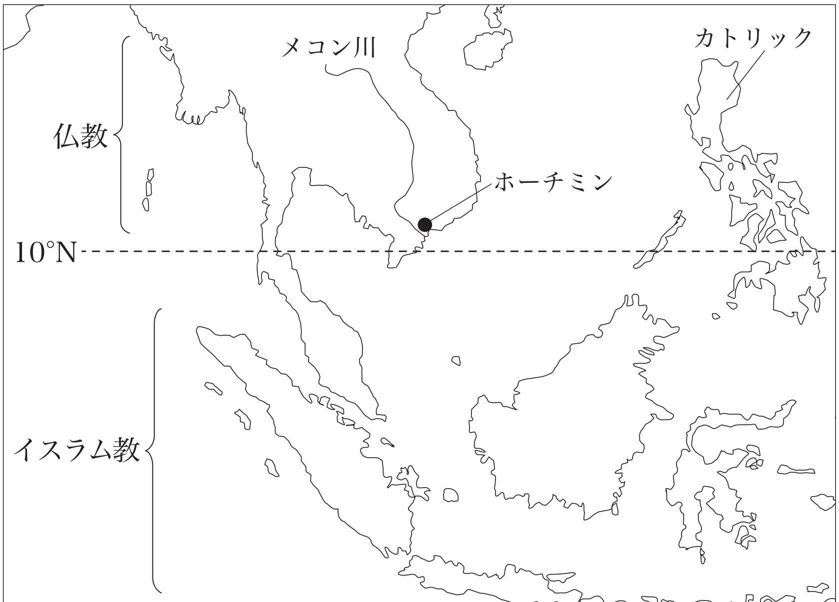
［７］　東南アジア11か国について，主に信仰されている宗教を確認しよう。

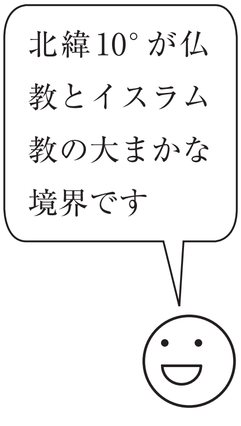
・フィリピン・・・カトリック。スペイン植民地時代に宣教師が送られた。
・ベトナム・・・仏教(大乗仏教)。北伝仏教。日本と同じ。漢字文化を持っていた国である。
・タイ・ミャンマー・ラオス・カンボジア・・・仏教(上座部仏教)。男子は出家し，修行に励む。仏教は托鉢の習慣があり，温暖多雨な農業地帯に広まった。とくにインドシナ半島にはメコン川，チャオプラヤ川など大河川が多く，その沖積低地では米作が盛ん。
・シンガポール・・・中国系住民が多く儒教や道教の文化もあるが，キリスト教徒やイスラム教徒も多く，多様。
・マレーシア・ブルネイ・インドネシア・・・イスラム教。香料交易のためアラブ商人が訪れ，イスラム化されていった。イスラム教は商人の宗教である。
・東ティモール・・・カトリック。ポルトガル植民地時代に広まった。

例外的な地域として，フィリピン南部のミンダナオ島（イスラム教）とインドネシアのバリ島（ヒンドゥー教）がある。

［８］　東南アジアの旧宗主国を整理しよう。

・フィリピン・・・スペインからアメリカ合衆国。英語が公用語の一つである。
・ベトナム・ラオス・カンボジア・・・フランス。コーヒーを飲む文化が伝わった。
・タイ・・・独立を維持。インドシナ半島の中心部に位置し，フランス領とイギリス領との緩衝地帯となった。
・ミャンマー・マレーシア・シンガポール・ブルネイ・・・イギリス。植民地時代にマレー半島においてイギリス系の天然ゴムのプランテーションが多く開かれた。
・インドネシア・・・オランダ。アラブ人の後に香料貿易を支配したのは商業国家オランダである。なお，オランダは教育や言語の普及については熱心でなかったため，旧植民地ながらインドネシアではオランダ語は広まらなかった。公用語はインドネシア語のみ。
・東ティモール・・・ポルトガル。一時期インドネシアの支配下にあったが，2002年に独立。





［９］　東南アジアの都市について整理しよう。人口1000万人を有する巨大都市は，

マニラ大都市圏（フィリピン）とジャカルタ（インドネシア）。とくにジャカルタの位置するジャワ島は人口稠密であり，周辺の島々への移住も進む。

・バンコク（タイ）・・・人口800万人に達し，タイの総人口の１割程度が集まるプライメートシティ。タイは国内の都市人口割合が50％に過ぎず，バンコク以外に人口が大きな都市は存在しない。

・ホーチミン・・・ベトナム南部。人口700万人を超える大都市で，広大なメコン川のデルタに位置する。近年は商業的な米作も行われている。首都は北部のハノイ。

・シンガポール・・・同国（人口600万人）の首都。中継貿易で栄える。１人当たりGNIが高いため，第２次産業（製造業など）から第３次産業（商業・金融業など）への転換が進んだ。

［10］　東南アジアの国々は，１人当たりGNIによって４つのランクに区分される。
高所得国；シンガポール（中継貿易港として発展）・ブルネイ（天然ガスの輸出）
工業国；マレーシア（先端産業の発達もみられる）・タイ（自動車工業が拡大）
新興国；インドネシア（石炭や原油，天然ガスの輸出）・フィリピン（出稼ぎを送り出す国であるが，近年工業化が進む）・ベトナム（社会主義国であるが市場経済化を進める）
後進国；ラオス（内陸部）・カンボジア（かつて凄惨な内戦）・ミャンマー（近年まで軍事政権だった）

①「繊維工業」，②「工業化は停滞」，③「自動車工業」，④「知識集約型工業」というキーワードに注目しながら，それぞれの国の経済発展の状況を考えよう。

第１講
東アジア・東南アジア［練習問題］

［１］（2009年度地理Ａ追試験第４問問５）

次の**カ**～**ク**の文は，**図１**中のソウル，プサン，ポハンのいずれかの都市の特徴について述べたものである。**カ**～**ク**と都市名との正しい組合せを，下の①～⑥のうちから一つ選べ。

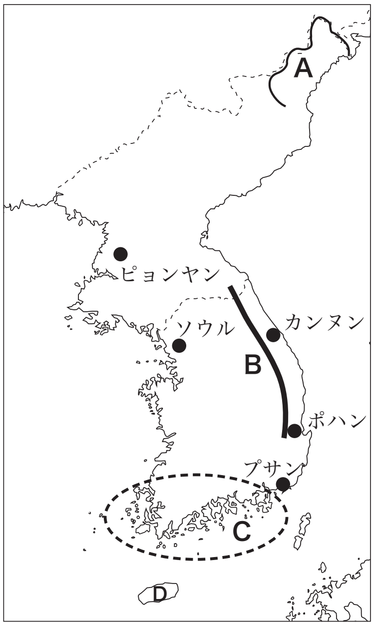


図　１

カ　国内における政治・経済・文化の中心地であり，外資系企業が多く進出している。

キ　1960年代後半以降，日本企業の協力による製鉄所も建設され，重工業都市へと発展した。

ク　国内第２位の人口をもつ都市であり，古くから日本との交通の要地となっている。

	カ	キ	ク
①	ソウル	プサン	ポハン
②	ソウル	ポハン	プサン
③	プサン	ソウル	ポハン
④	プサン	ポハン	ソウル
⑤	ポハン	ソウル	プサン
⑥	ポハン	プサン	ソウル

［２］（2005年度地理Ｂ本試験第３問問２）

次の**図２**中の①～④は，**図１**中の**ア**～**エ**のいずれかの地点とペキンとを結ぶ線に沿った地形断面を示している。地点**ウ**とペキンとの間の地形断面図として最も適当なものを，**図２**中の①～④のうちから一つ選べ。ただし，水平距離に対して垂直距離は約200倍で表現してある。

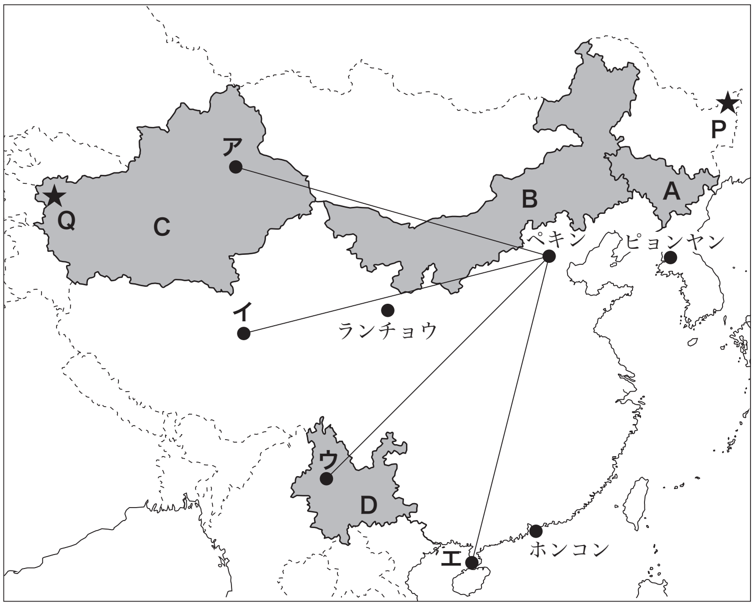


図　１

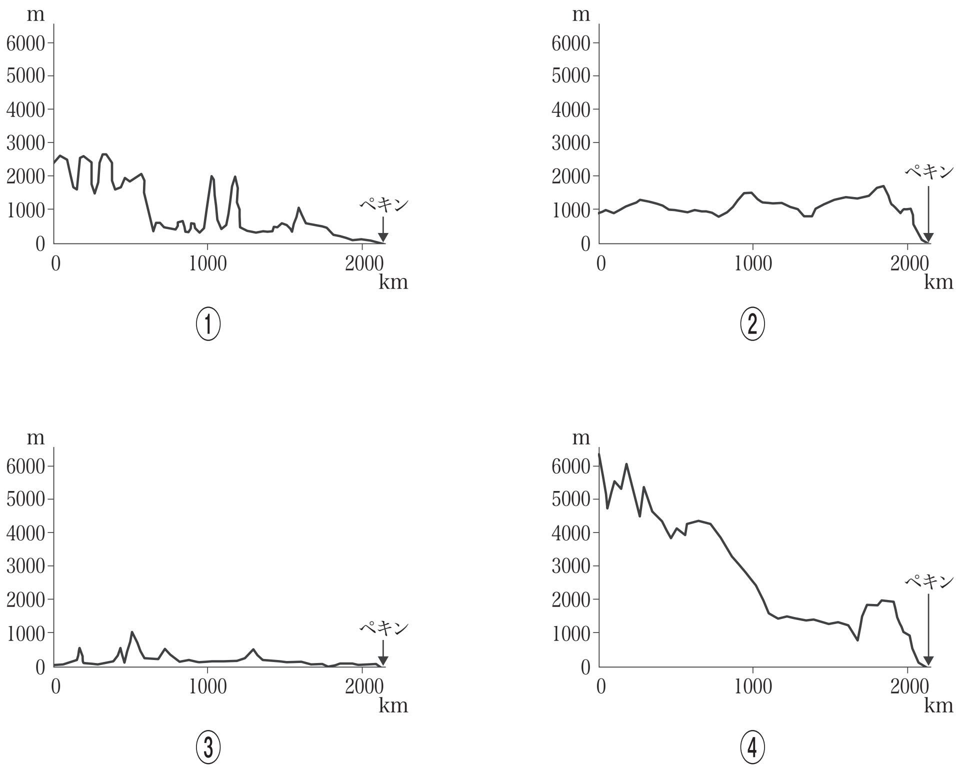


図　2

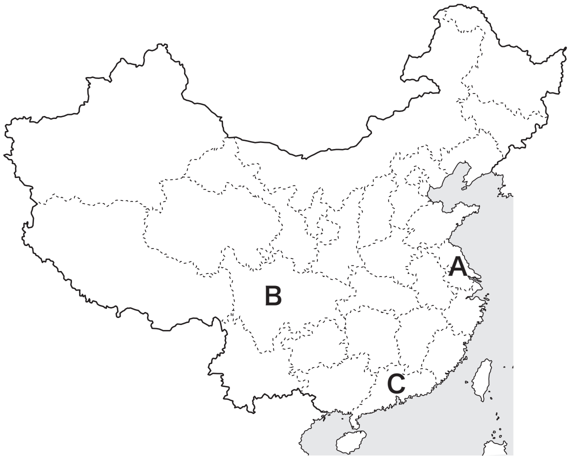
［３］（2000年度地理Ｂ追試験第３問問１）

次の文章**ア〜ウ**は省別に1996年現在の中国国内の様子を述べたものである。下の図中の**Ａ〜Ｃ**は**ア〜ウ**に該当する省のいずれかの位置を示したものである。**ア〜ウ**と**Ａ〜Ｃ**の組合せとして正しいものを，下の①〜⑥のうちから一つ選べ。

ア　中国の省の中で最大の人口を有する。米の生産量が全国で第２位の農業地域であるが，多数の農民が省外へ出稼ぎに出ている。

イ　かつては東南アジア各地に移住者や出稼ぎ者を送り出す貧しい地域であった。改革・開放政策で外国資本の導入が進み，経済が急速に発展した。

ウ　改革・開放政策で工業が著しく発展し，工業生産額は全国第１位である。長江に沿った湖沼の多い地域で，米や小麦の生産が多くみられる。



	①	②	③	④	⑤	⑥
ア	A	A	B	B	C	C
イ	B	C	A	C	A	B
ウ	C	B	C	A	B	A

［4］（2015年度地理A本試験第3問問4）

次の**カ**～**ク**の文は，**図1**中の**K**～**M**で示されたいずれかの自治区を主とする中国の少数民族について述べたものである。**K**～**M**と**カ**～**ク**との正しい組合せを，下の①～⑥のうちから一つ選べ。

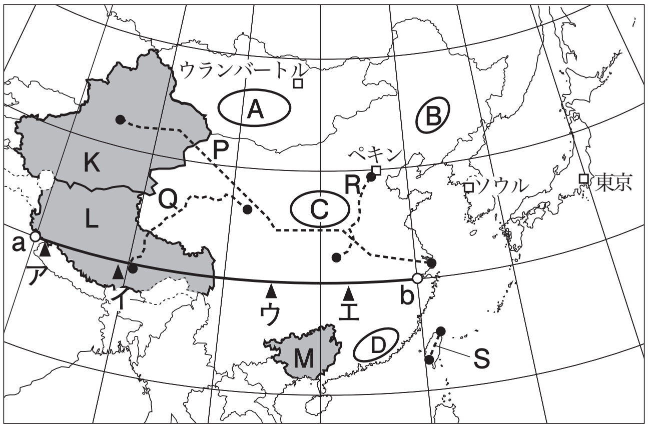


図　1

カ　中国の少数民族の中では最も人口が多く，生活には仏教や道教の影響がみられる。

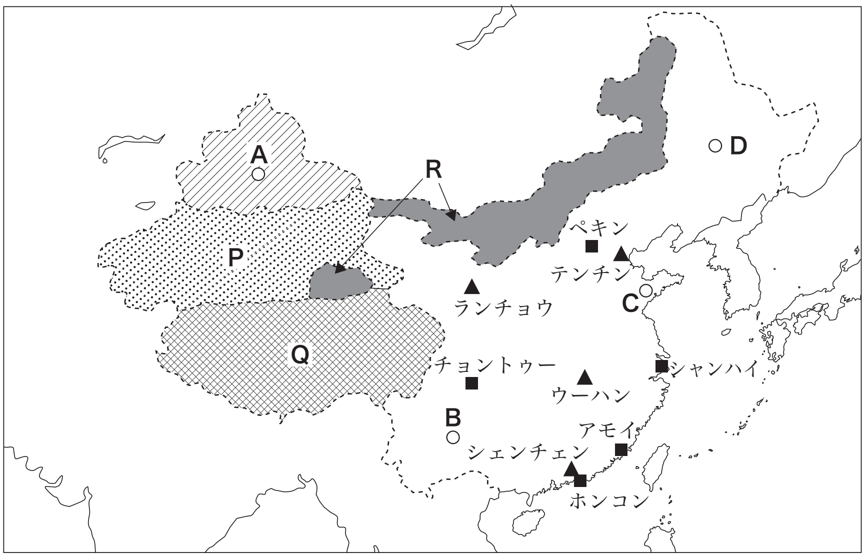
キ　羊やヤクの遊牧がみられ，独自の発展を遂げた仏教にもとづいて生活する人が多い。

ク　文字の表記にはアラビア文字をもとにした字体が主に使われているが，漢語を話す人も増えている。

	①	②	③	④	⑤	⑥
K	カ	カ	キ	キ	ク	ク
L	キ	ク	カ	ク	カ	キ
M	ク	キ	ク	カ	キ	カ

［５］（2009年度地理Ａ本試験第４問問７）

次の①～④は，**図１**中に示した工業都市であるウーハン(武漢)，シェンチェン(深圳)，テンチン(天津)，ランチョウ(蘭州)のいずれかについて述べたものである。シェンチェンについて述べた文として最も適当なものを，次の①～④のうちから一つ選べ。



国境線は，設問にかかわる部分のみを記した。「中華人民共和国地図集」などにより作成。

図　１

① 中央直轄市の一つで，豊富な鉱産資源を背景に鉄鋼業や機械工業などが発達している。

② 経済特区として最も早く指定された都市であり，外国企業が進出し，軽工業，電子・電気工業などが発達している。

③ 水陸交通の要地で商工業が発達するとともに，中国における三大鉄鋼コンビナートの一つが立地している。

④ 古くから交通の要地として栄えた都市であり，現在は石油精製工業を中心とした化学工業や機械工業が盛んである。

［６］（2010年度地理Ａ追試験第４問問１）

図１に示した地域における自然環境について述べた文として適当でないものを，次の①～④のうちから一つ選べ。

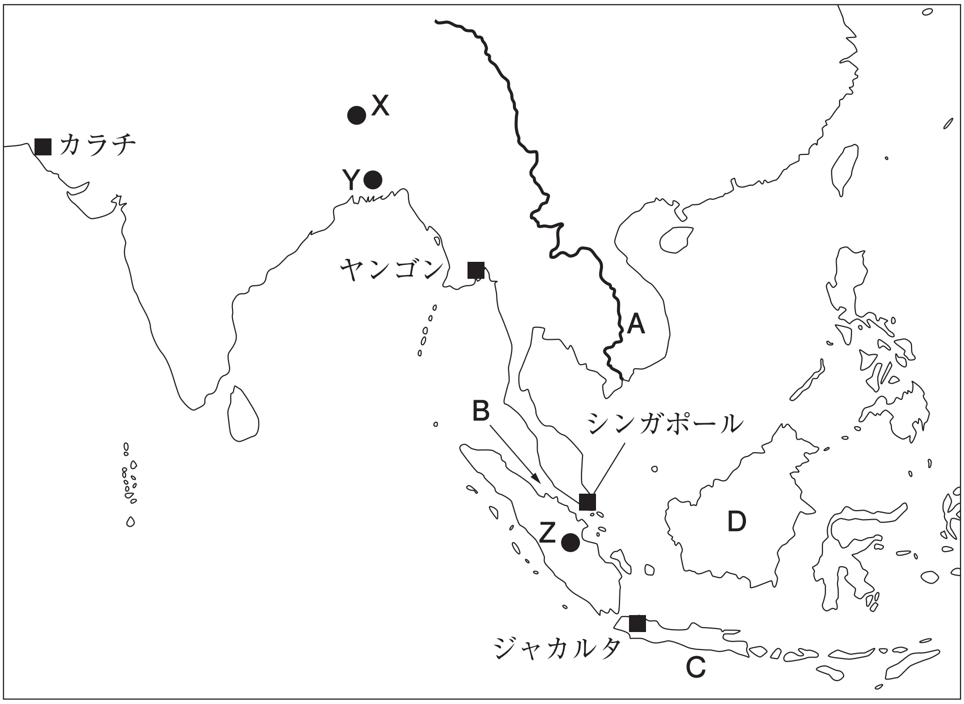


図　1

①　**A**川は，南シナ海にそそぐ国際河川であり，下流域には三角州(デルタ)が形成されている。

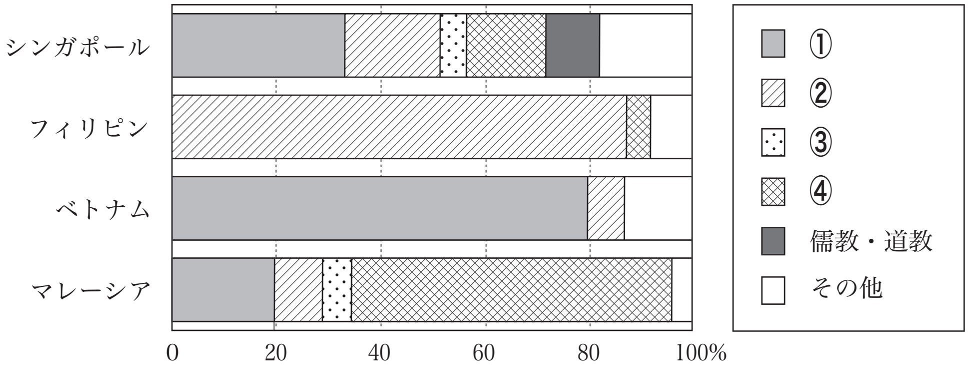
②　**B**海峡は，海溝があるため水深が深く，大型船舶が通航し国際的に重要な航路となっている。

③　**C**島は，新期造山帯に属しているため，火山活動が活発である。

④　**D**島は，大半が熱帯雨林に覆(おお)われ，海岸部ではマングローブがみられる。

［７］（2014年度地理Ａ追試験第３問問５）

次の**図３**は，シンガポール，フィリピン，ベトナム，マレーシアにおける宗教別人口の割合を示したものであり，①～④はイスラーム（イスラム教），キリスト教，ヒンドゥー教，仏教のいずれかである。イスラームに該当するものを，**図３**中の①～④のうちから一つ選べ。



宗教別人口の割合が５％以下の場合にはその他に含めた。
統計年次は2010年。
ASEAN-JAPAN Centreの資料により作成。

図　３

［8］（2012年度地理Ｂ追試験第４問問４）

図１中のＰ～Ｓのいずれかの国における経済や文化について述べた文として最も適当なものを，次の①～④のうちから一つ選べ。

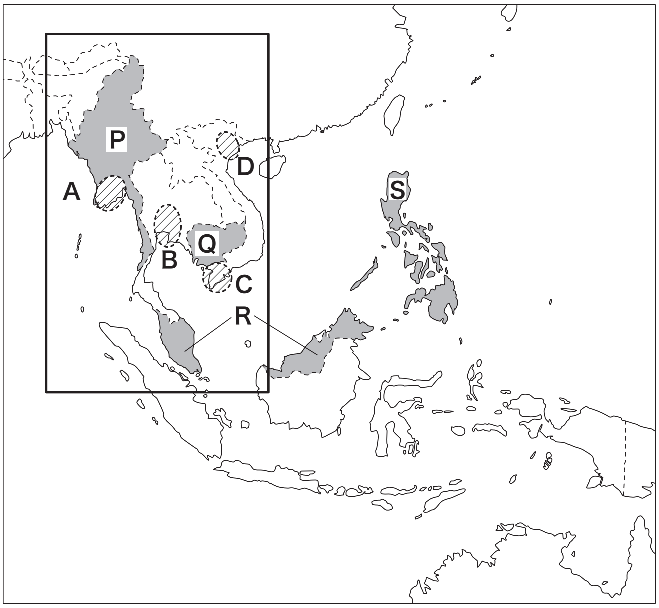


図　1

① Ｐ国では，欧米諸国の植民地化を免れたために，ビルマ語や仏教信仰など独自の文化が維持されている。

② Ｑ国では，長期にわたる内戦や政情不安から，多くの出稼ぎ労働者が経済発展を遂げる近隣の国々に流出している。

③ Ｒ国では，マレー系住民への優遇政策により，マレー系住民の社会・経済的地位が中国系やインド系の住民を凌（しの）ぐようになった。

④ Ｓ国では，公用語としてスペイン語と英語が使われており，植民地時代の影響を色濃く残している。

［９］（2005年度地理Ｂ追試験第４問問５）

国際化の進展は人々の移動を促進させている。次の**サ**～**ス**の文章は，シンガポール，バンコク，ホーチミンのいずれかにおける人々の移動などについて述べたものである。**サ**～**ス**と都市名との正しい組合せを，下の①～⑥のうちから一つ選べ。

サ　日本企業の進出も多く，ビジネス目的の旅行者も多い。街中いたるところに仏教寺院があり，多くの観光旅行者が訪れる。郊外には世界遺産に登録された古都がある。

シ　フランス統治時代の建築物が街の中心部に数多く残る。この国最大の都市で，経済政策の転換によって海外との交流が活発化し，日本人旅行者も増加している。

ス　早くから中継貿易の拠点として成長し，都心部には国際的な金融機関などが入居する高層ビルが建ち並んでいる。隣国からの通勤者もみられ，英語をはじめとする複数の言語が使用されている。

	サ	**シ**	**ス**
①	シンガポール	バンコク	ホーチミン
②	シンガポール	ホーチミン	バンコク
③	バンコク	シンガポール	ホーチミン
④	バンコク	ホーチミン	シンガポール
⑤	ホーチミン	シンガポール	バンコク
⑥	ホーチミン	バンコク	シンガポール

［10］（2010年度地理Ａ追試験第４問問５）

次の①～④の文は，シンガポール，タイ，ベトナム，ミャンマーのいずれかの国における経済発展について述べたものである。ベトナムについて述べた文として最も適当なものを，次の①～④のうちから一つ選べ。

① 1980年代半ばから経済開放をすすめ，積極的に外国資本を受け入れたことにより，現在では機械工業や繊維工業が発達している。
② 経済発展をめざして1990年代にASEAN（東南アジア諸国連合）に加盟したが，民主化と経済開放が遅れているため，工業化は停滞している。
③ 日本企業の現地法人数が東南アジアで最も多く，電気機械工業や自動車工業が発達しているほか，農業資源をいかした食品加工業も盛んである。
④ 古くからの中継貿易の拠点であり，1960年代には大規模工業団地が建設されて工業化がすすんだが，現在は知識集約型工業が発達している。

第１講
東アジア・東南アジア［発展問題］

［１］（2003年度地理Ａ本試験第２問問２）

次の文**カ〜ク**は，下の**図１**中の**Ａ〜Ｃ**で示されたいずれかの自治区を主たる居住地とする中国の少数民族やその生活について述べたものである。**カ〜ク**と**Ａ〜Ｃ**の組合せとして正しいものを，下の①〜⑥のうちから一つ選べ。

カ　チベット仏教(ラマ教)に基づいて生活する人が多い。
キ　オアシス農業や放牧が農業の中心となっている。
ク　中国の少数民族の中では最大の人口をもつ。

図　１

	①	②	③	④	⑤	⑥
カ	A	A	B	B	C	C
キ	B	C	A	C	A	B
ク	C	B	C	A	B	A

［２］（2004年度地理Ｂ本試験第４問問２）

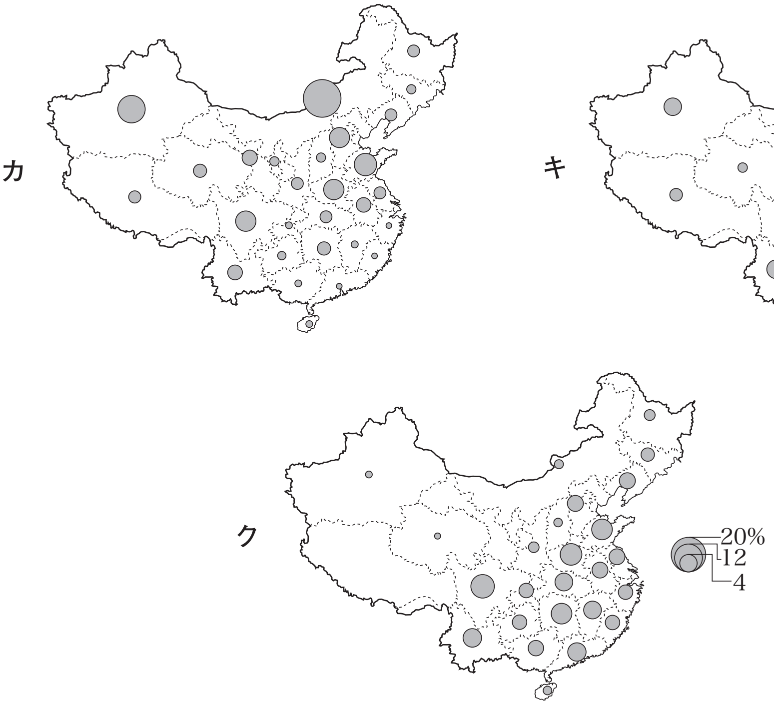
次の①～④の文は，中国の四つの都市，シェンチェン(深圳)，シャンハイ(上海)，テンチン(天津)，ホンコン(香港)のいずれかについて述べたものである。シェンチェンについて述べた文として最も適当なものを，次の①～④のうちから一つ選べ。

① 経済技術開発区をもつ直轄市で，首都の外港として機能している。
② 中国の特別行政区で，国際的な金融センターとして機能している。
③ 中国最大の商工業都市で，外国資本を導入した開発が進展している。
④ 経済特区に指定され，工業化と市街地の拡大が急速に進んでいる。

［３］（2013年度地理Ｂ追試験第４問問２）

次の**図２**は，中国(＊)における主な肉類の生産量について，中国全体に対する省(直轄市･自治区を含む)ごとの割合を示したものであり，**カ**～**ク**は牛肉，羊肉，豚肉のいずれかである。**カ**～**ク**と品目名との正しい組合せを，下の①～⑥のうちから一つ選べ。

(＊)台湾，ホンコン，マカオを含まない。



統計年次は2009年。『中国統計年鑑』により作成。

図　２

	①	②	③	④	⑤	⑥
牛肉	カ	カ	キ	キ	ク	ク
羊肉	キ	ク	カ	ク	カ	キ
豚肉	ク	キ	ク	カ	キ	カ

［４］（2009年度地理Ｂ追試験第３問問４）

次の①～④の文は，シンガポール，タイ，ブルネイ，マレーシアのいずれかの国の鉱工業について述べたものである。タイについて述べた文として最も適当なものを，次の①～④のうちから一つ選べ。

① 中継貿易港の利点をいかし，早くから輸出指向型の工業化を進め，造船，石油化学，電気機械・電子などの工業が成長した。
② かつては世界最大のすず鉱の産出国であったが，現在では外国企業の進出によって，電気機械・電子工業が主要産業となっている。
③ １人当たりGDP（国内総生産）は高い水準にあるが，原油や天然ガスの産出が中心で，輸出に占める工業製品の割合は10％ほどである。
④ 食料品工業や繊維工業に加え，外国企業の進出によって，自動車工業をはじめとした機械工業の成長が著しい。

［5］（1997年度地理Ｂ本試験第２問問６）

次の**表１**は，シンガポールとマレーシアについて，それぞれの国の総人口と，主な民族別の人口構成を示したものである。両国がとっている民族・言語政策として適当なものを，下の文①～⑤のうちからそれぞれ一つずつ選び，シンガポールについては(1)に，マレーシアについては(2)に答えよ。

表　１

国名	総人口(万人) 1993年	各民族の構成比(％)		
		中国系	マレー系	インド系
シンガポール	287	78	14	7
マレーシア	1,905	29	63	8

「Buku Tahunan Perangkaan」，「Yearbook of Statistics Singapore」による。

① 中国語のみを公用語とし，多数派である華人を優遇する政策をとっている。

② 中国語，マレー語，タミル語に加え，英語も公用語とすることによって，国家の統合をはかろうとしている。

③ 民族間の対立を避けるため，各民族の言語を用いず，英語とフランス語を公用語としている。

④ 多数派の言語であるマレー語のほかに，中国語，タミル語を公用語とすることによって，国家の統合をはかろうとしている。

⑤ マレー語を公用語とし，多数派であるにもかかわらず経済的には低い地位におかれているマレー人を優遇する政策をとっている。

練習問題の解答解説

第1講
東アジア・東南アジア［練習問題］解答

［1］正解；②

ソウルがわかりやすい。首都にして国内最大の人口を有する都市である。「政治」の中心であり，**カ**が該当。さらにプサンにも注目しよう。韓国最大の港湾都市であり，世界有数のコンテナ取扱量を誇る。位置的に日本に近く，古来より朝鮮半島と日本との交流の結節点であった。**ク**に該当。以上より②が正解。なお，ポハンは臨海型の鉄鋼都市。日本の協力によって製鉄所がつくられ，輸入資源を利用した鉄鋼生産が行われている。

［2］正解；①

スーチョワン盆地の存在がポイントになる。スーチョワン省（練習問題［3］の解説参照）を中心とするスーチョワン盆地は長江中流に広がる巨大な盆地。**ウ**の線がそれを通過しているのがわかるだろうか。周囲を山で囲まれた盆地が表されている①が正解。

エは起点の標高が低く，③に該当。**イ**は起点が極めて標高の高いチベット高原であり，④に該当。残った②が**ア**であるが，モンゴルや黄河中流域の高原地帯を通過している。

［3］正解；④

BとCに注目。Bはスーチョワン省（＊）。周囲を山で囲まれた天然の要害として，古代より人々が豊かな農耕生活を営んでおり，スーチョワン盆地全体（＊）の人口は現在1億人に達する。しかし，内陸部であることから経済発展の恩恵が得られにくく，1人当たりの省内総生産は高くない。沿海部へと多くの出稼ぎが生じている。**ア**に該当する。

さらにCはコワントン省。亜熱帯気候のみられる華南を代表する省で，特別行政区であるホンコンとマカオに接する。山がちな地形で耕地が少なく農業が振るわなかったため，かつては多くの移民を東南アジアなどに送り出した。しかし，

沿岸部の複雑な海岸線は天然の良港となり，経済特区が設けられるなど，1980年代以降は工業化が進み，高い経済成長を達成した。かつての人口流出地域は，現在内陸部などから多くの出稼ぎを迎え入れる地域に変貌している。**イ**が該当し，正解は④。

なお，**ウ**は**A**のチャンスー省に該当。長江の河口に近い。

（＊）厳密には，スーチョワン省とチョンチン市。旧スーチョワン省は1997年に一つの省と一つの中央直轄市に分割された。

［４］正解；⑥

Kはシンチアンウイグル自治区。シルクロードが通り，アラブ商人によってイスラム教が伝えられた。イスラム教のコーランはアラビア語で書かれていることもあり，アラブ世界からの影響が強い。「アラビア文字」より**ク**が**K**となる。

さらに**M**のコワンシーチョワン族自治区に注目。温暖多雨な地域に位置し，米作が盛ん。多くの人口を養えることから，チョワン族は少数民族としては人口が多い。**カ**が該当する。なお，この地域で広まっている仏教は日本やベトナムと共通する大乗仏教。

Lのチベット自治区については，冷涼少雨の高原であり，農耕に適さないことを考えよう。人々は「ヤクの遊牧」を営んで暮らしている。**キ**が該当。なお，この地域で信仰されている仏教はチベット仏教（ラマ教）であり，湿潤アジアで信仰されている仏教とは異なる。チベット自治区の区都ラサのポタラ宮が総本山。

［５］正解；②

シェンチェンはホンコンに隣接する経済特区である。②が正解。現在は出稼ぎ者が多数を占め，機械工業などが発達。

①はテンチン。ペキンの外港都市であり，綿工業などが発達。中央直轄市はペキン，テンチン，シャンハイ，チョンチン。

③はウーハン。鉄山に近接し，原料地指向型の鉄鋼業が栄えた。なお，三大鉄鋼コンビナートはウーハンのほか，東北区のアンシャン，内モンゴル自治区のパオトウがあり，いずれも資源産地に近い。

④はランチョウ。シルクロードの中継地だった。現在は西部の油田よりパイプラインが通じ，石油精製工業が立地している。

［６］正解；②

Ｂのマラッカ海峡の水深は極めて浅く，平均水深は20ｍ程度（日本の瀬戸内海と，長さと幅，平均水深が近いので，イメージしやすいと思う）。「海溝」は存在しない。ただし「大型船舶」は通航し，「国際的に重要な航路」であることは間違いない。世界有数の大規模港を有するシンガポールが面し，日本向けのタンカーの通り道でもある。

①；メコン川は６か国を流域に含み，沿岸国の自由航行が認められた国際河川である。河口は巨大なデルタとなっており，ベトナム最大の都市ホーチミンが位置する米作地帯である。

③；ジャワ島は，アルプス・ヒマラヤ造山帯に属し，火山も多い。

④；カリマンタン島は赤道直下にあり，熱帯雨林に覆われる。沿岸部にはマングローブが広がる。

［７］正解；④

マレーシアは多民族国家であるが，多数派であるマレー系住民はイスラム教を信仰する。マレーシアで高い割合を示す④がイスラム教。

フィリピンで信者が多い②がキリスト教，ベトナムで主に信仰される①が仏教。③がヒンドゥー教だが，東南アジアでは信者数が限られている。

［８］正解；②

①；Ｐ国はミャンマーであるが，かつてイギリスの植民地だった。植民地化を逃れたのはタイ。

③；Ｒ国はマレーシアであり，マレー系優遇のブミプトラ政策が実施されているのは事実であるが，その社会・経済的地位は決して高くない。とくに経済の面においては，東南アジアにおける中国系住民（華人）の影響力は絶大である。

④；フィリピンの公用語は英語とピリピノ語（民族固有の言語であるタガログ語を元としたもの）。スペインに植民地支配された歴史はあるが，その影響は宗教（カトリック）には表れているが，言語は関係ない。

以上より②が正解。カンボジアは多くの勢力が対立し長い内戦を経験した。国旗にも描かれている世界遺産のアンコールワット遺跡は激しく荒廃した。

［9］正解；④

シンガポールから特定しよう。「中継貿易」がキーワードとなり，**ス**が該当。１人当たりGNIが高いため「金融」業が発達する。また「隣国」であるマレーシアと橋（コーズウェイ）が結ばれ，通勤者もみられる。公用語は「英語をはじめとする複数の言語」である。

さらにバンコクについて考える。バンコクはタイの首都であるが，タイは東南アジアで最も「日系企業」の進出数が多い国。首都である（さらに全人口の１割が集まるプライメートシティでもある）バンコクにも当然多くの日系企業が集まり，**サ**が該当。正解は④。

シはホーチミンであるが，ベトナム南部に位置する国内最大の都市（ただし首都ではない）。ベトナムはフランス植民地であったので，「フランス」の文化も垣間見える。

［10］正解；①

ASEAN10か国は１人当たりGNIの違いによって４つのランクに切り分けられる。選択肢の４つの国をランクの高い方から並べると，「シンガポール＞タイ＞ベトナム＞ミャンマー」である。

選択肢の文からキーワードを拾うと，それぞれ「繊維工業」，「工業化は停滞」，「自動車工業」，「知識集約型工業」である。最も経済レベルの高いシンガポールではコンピュータなど知識集約型工業が発達し，④に該当。経済レベルが最も低く，工業化が進まないミャンマーが②となる。①と③については，繊維工業が軽工業，自動車工業が重工業である点に注目。ベトナムとタイを比べ，賃金が安く衣服の生産に適したベトナムが①，工業化が進み重工業が発達しつつあるタイが③となる。

発展問題の解答解説

第１講
東アジア・東南アジア［発展問題］解答

［１］正解；③

Aはシンチアンウイグル自治区。シルクロードに沿う乾燥地域でイスラム教が伝えられた。伝統的な灌漑農業であるオアシス農業によって穀物や綿花が栽培されるほか，羊の放牧もみられる。**キ**が該当。

Bはチベット自治区。標高が極めて高い冷涼少雨の高原を中心とし，ヤクの遊牧がみられる。チベット仏教が信仰され，**カ**が該当。

Cはコワンシーチョワン族自治区。温暖多雨で米作が盛ん。高い人口支持力によって，農業を基礎とする仏教が広まっている。**ク**が該当。

［２］正解；④

シェンチェンはコワントン省の都市。ホンコンに隣接し，経済特区に指定されている。外資系の企業が多く進出し，出稼ぎ者の流入によって人口も急増した。

①はテンチン。直轄市の一つで，ペキンの外港都市である。綿工業などが盛ん。

②はホンコン。イギリスの植民地として発展し，1990年代に中国へと返還された。返還後も資本主義の経済体制は維持されており，１人当たりGNIは高い。金融業が発達する。

③はシャンハイ。人口規模はペキンを凌ぎ，港湾都市として商工業が発展する。輸出加工区が設けられ，外国企業の進出数も多い。

［３］正解；③

北西部のシンチアンウイグル自治区に注目。イスラム教地域であり豚の飼育はみられず，乾燥地域なので主に羊が飼育されている。ここで値の大きい**カ**が羊，小さい**ク**が豚となる。羊はこれ以外に内モンゴル自治区でも多く，やはり少雨である。豚は華北やスーチョワン省で多く，これらの地域は豊かな農業地域であるため，飼料作物の栽培も盛ん。

［４］正解；④

①；「中継貿易」よりシンガポールである。東南アジアで最も早く工業化を成し遂げた国でもある。ただし，高賃金と労働力の少なさにより，繊維や自動車など労働集約型工業は発達せず，石油化学工業のような資本集約型工業や，電子など知識集約型工業が中心である。

②；この国も工業は発達しているが，①のシンガポールに比べると「電気機械」などが「主要産業」であるなど，労働集約型の特徴がある。マレーシアに該当。１人当たりGNIは約10000ドル／人であり，機械工業も成り立つ。ただし，近年は首都クアラルンプール近郊のサイバージャヤにハイテク産業地域が形成されるなど，先端産業の分野においても飛躍が目覚ましい。

③；「天然ガス」が主要な輸出品目であり，ブルネイに該当。資源産出に依存する小国であり，１人当たりGNIが高い。

④；工業国ではあるが，その中心の一つに繊維工業があるなど，経済レベルが①のシンガポールや②のマレーシアより低いことがわかる。１人当たりGNIが約6000ドル／人であるタイに該当。なお，タイは自動車部品などについて日本と自由貿易を行っており，バンコク近郊には日系の自動車工場が多く設けられている。ここで組み立てられた自動車が西アジアの産油国などに輸出されている。

［５］正解；⑴②　⑵⑤

⑴シンガポールはもともとマレーシアの一部だったことからマレー語が，さらに旧宗主国の言語である英語に加え，移民系の言語である中国語とタミル語（インド南部の言語）も，公用語とされている（公的な場においては一般に英語が使用される）。

⑵マレーシアではブミプトラ政策が施行されるなど，先住のマレー系住民の権利が高く尊重されており，公用語もマレー語のみである。宗教もイスラム教が国教とされ，国旗にもイスラム教を象徴する月と星のマークが描かれている。

なお，表中の数値については現在とは異なっているので注意してほしい。参考までに最新のデータを示しておく。

国名	総人口(万人) 2020年	各民族の構成比(%)		
		中国系	マレー系	インド系
シンガポール	585	74	13	9
マレーシア	3,237	23	62	7

『データブック　オブ・ザ・ワールド』(二宮書店),『世界国勢図会』(矢野恒太記念会)により作成。

各民族の構成比の統計年次は，シンガポールが2010年，マレーシアが2009年。

〈Note〉